

西洋近代美術史入門b

—「作品」を読む—

(1年 後期 2単位)

六人部 昭 典

授業のテーマ・目標

印象主義の展開を中心に、19世紀フランス絵画の展開を扱い、「作品」を読むことを学びます。美術史の基本は「作品」です。そして「作品」は、それを制作する美術家だけではなく、受容する人々、背後にある社会や時代とのさまざまな関わりの中で生み出されます。この授業では、「作品」と社会・時代との関連を軸に、「作品」を読むこと、つまり美術史のアプローチを学びます。

授業の内容

1. はじめに
(授業の進め方と成績評価の確認、「作品」を知ること)
2. ダヴィッド：フランス革命と新古典主義
3. ジェリコー：歴史画と「現実」
4. アングルとドラクロワ：線と色彩
5. カンスタブルとカラー：近代的風景画の「近代」とは？
6. クールベ：無名の「歴史」
7. マネ：絵画の変革と「近代」
8. モネ（1）：印象主義とモデルニテ
9. モネ（2）：光と主題
10. モネ（3）：《睡蓮》連作の展開
11. ピサロ：印象主義と近代社会
12. ルノワール：ルノワールは好き／嫌い？
13. ドガ：印象主義とパリ
14. モリゾとカサット：印象主義と「女性」
15. まとめ

準備学習

授業で取り上げる作品について、『世界美術大全集』（図書館と学科演習室で閲覧可能）や他の参考文献を読み、関連する美術や社会の動きを把握する。

テキスト・教材

テキスト（教科書）は使いません。

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

参考書

『世界美術大全集』『西洋美術館』（小学館）、他は授業時に指示します。

注意事項

授業はスライドを使って進めますが、実際に「作品」を見ること（芸術経験）が何よりも大切です。授業に対する関心を深め、美術史の基礎を身につけてゆくためにも、首都圏で開かれる西洋美術に関する展覧会など、美術館に積極的に出かけることを心がけてください（授業の中で展覧会のポイント紹介も取り入れる予定です）。見学授業（学外）を行う場合もあります。